

事務連絡
令和7年3月26日

各 { 都道府県
保健所設置市
特別区 } 衛生主管部(局) 御中

厚生労働省健康・生活衛生局食品監視安全課

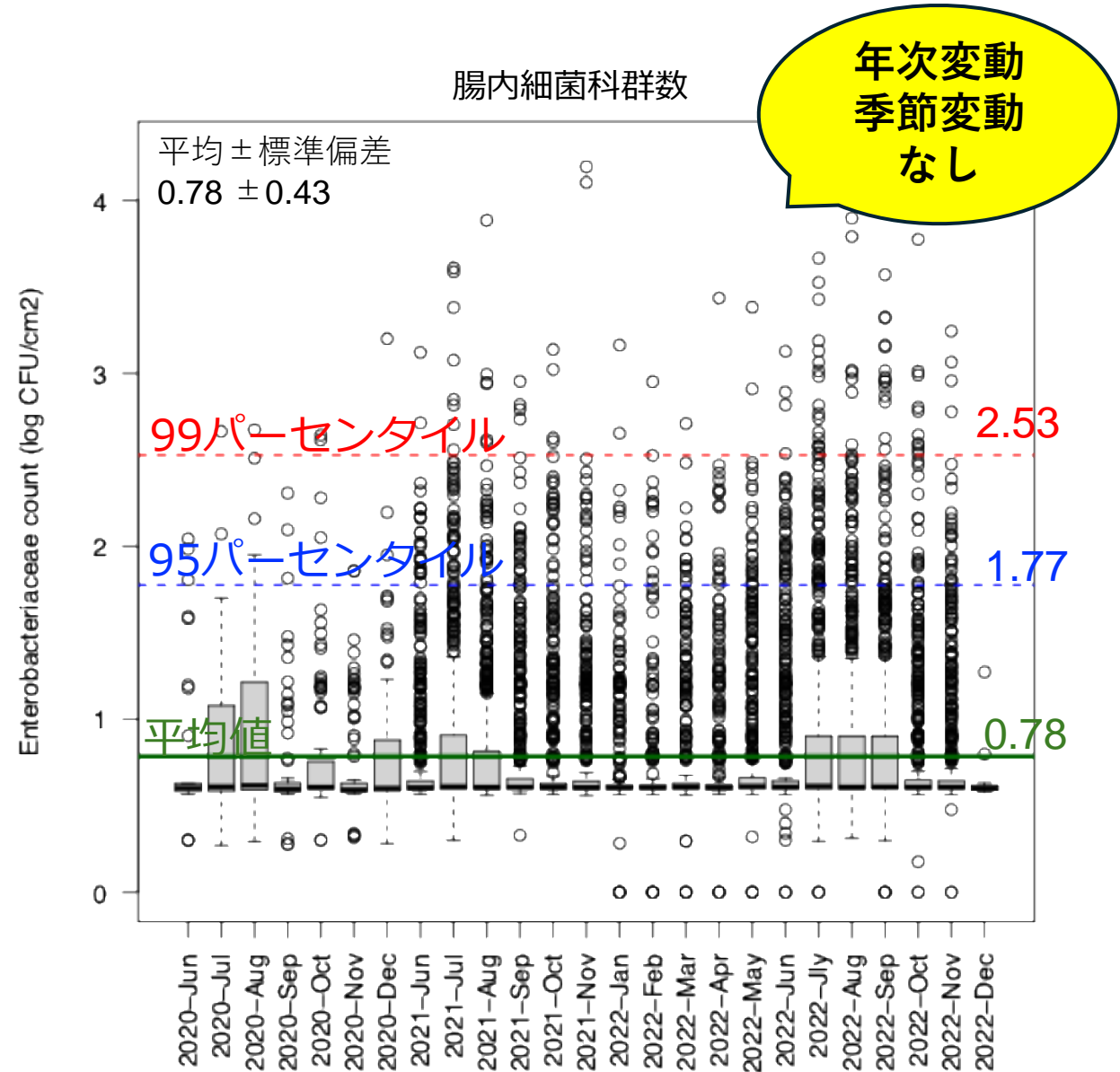
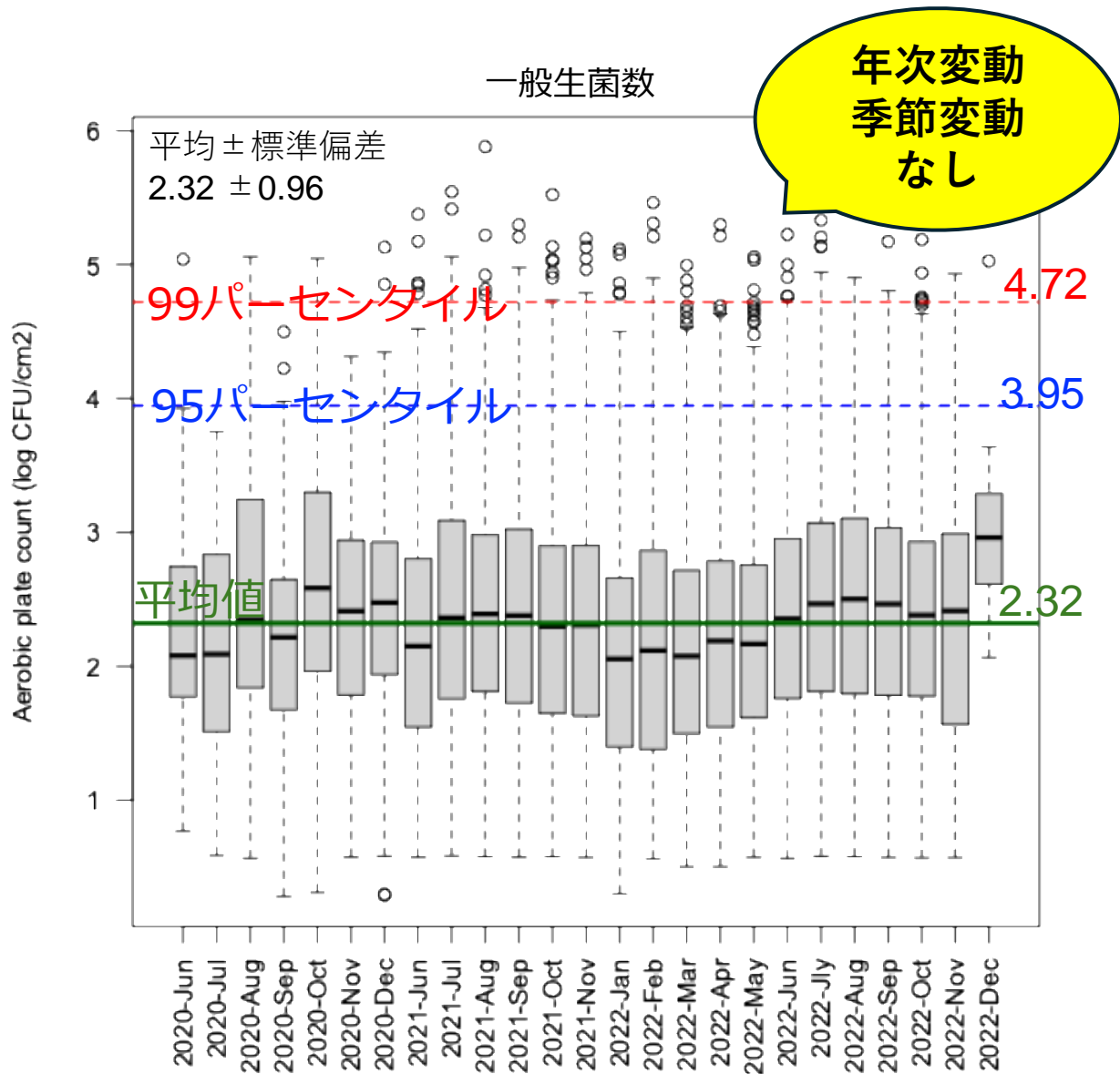
と畜検査員及び食鳥検査員による外部検証(微生物試験)成績の概要について

と畜場法施行規則第3条第6項又は第7条第5項に基づくと畜検査員による検査、又は試験及び食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律施行規則第4条第4項に基づく食鳥検査員による検査又は試験(以下「外部検証」という。)については、これまで令和2年度及び令和3年度に実施された試験結果について、厚生労働科学研究費補助金「と畜・食鳥処理場における HACCP の検証方法の確立と食鳥処理工程の高度衛生管理に関する研究」(研究代表者:朝倉 宏)において、解析を行い共有してきたところです。

今般、同補助金「と畜・食鳥処理場における HACCP の検証及び食肉・食鳥肉の衛生管理の向上に資するための研究」(研究代表者:森田幸雄)において、令和2年度から令和4年度に実施された試験結果全体の解析を行いましたので、別添のとおりその結果をお知らせします。

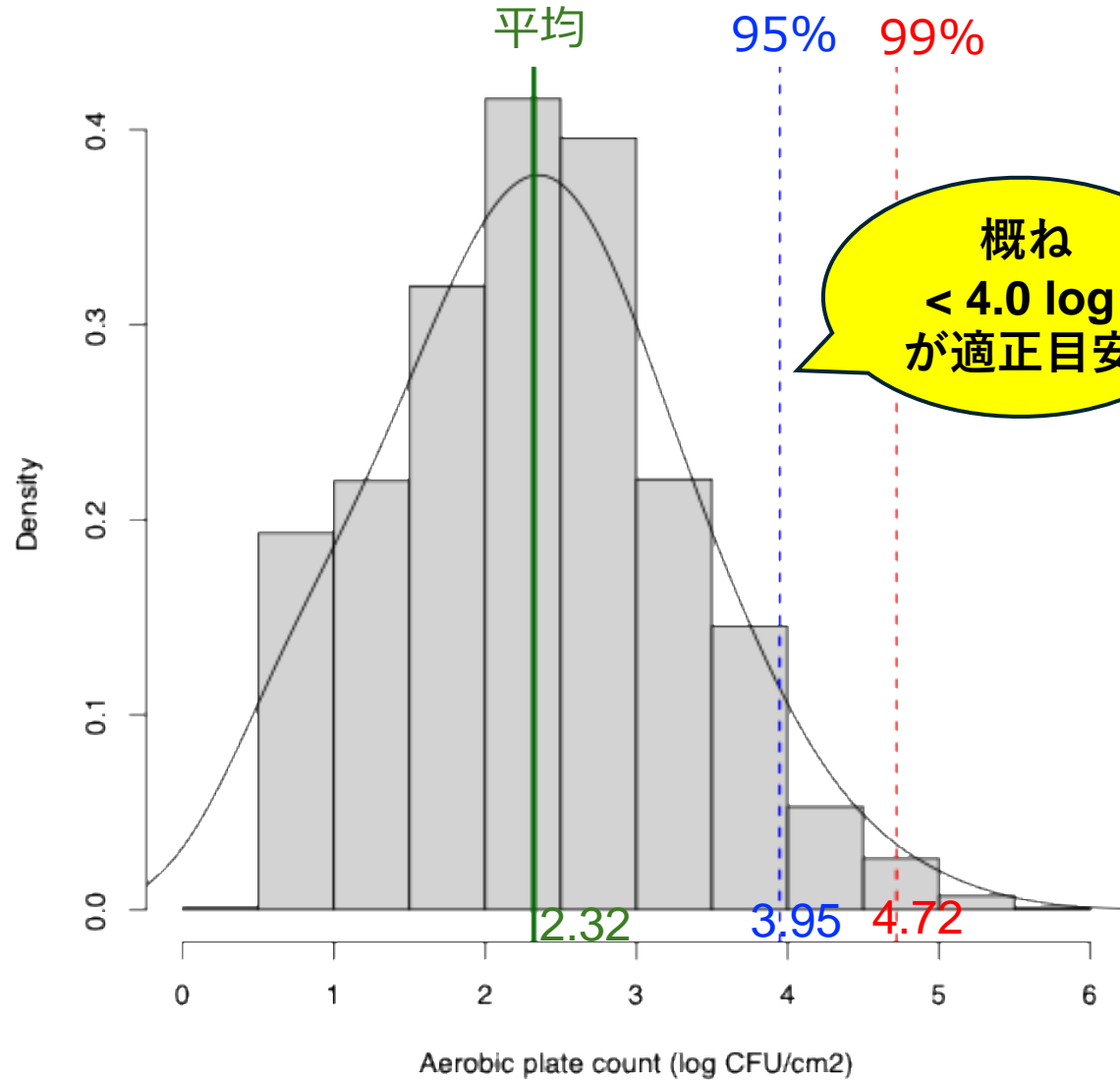
引き続き、当該結果を参考に、地域の実情や管轄する施設の規模及び衛生管理の実態に応じた外部検証の実施に努めていただきますようお願いいたします。

3カ年（R2-R4年度）にわたる牛肉の菌数検査結果（n = 9,745）
季節変動や年次変動なく概ね一定値（範囲）で推移

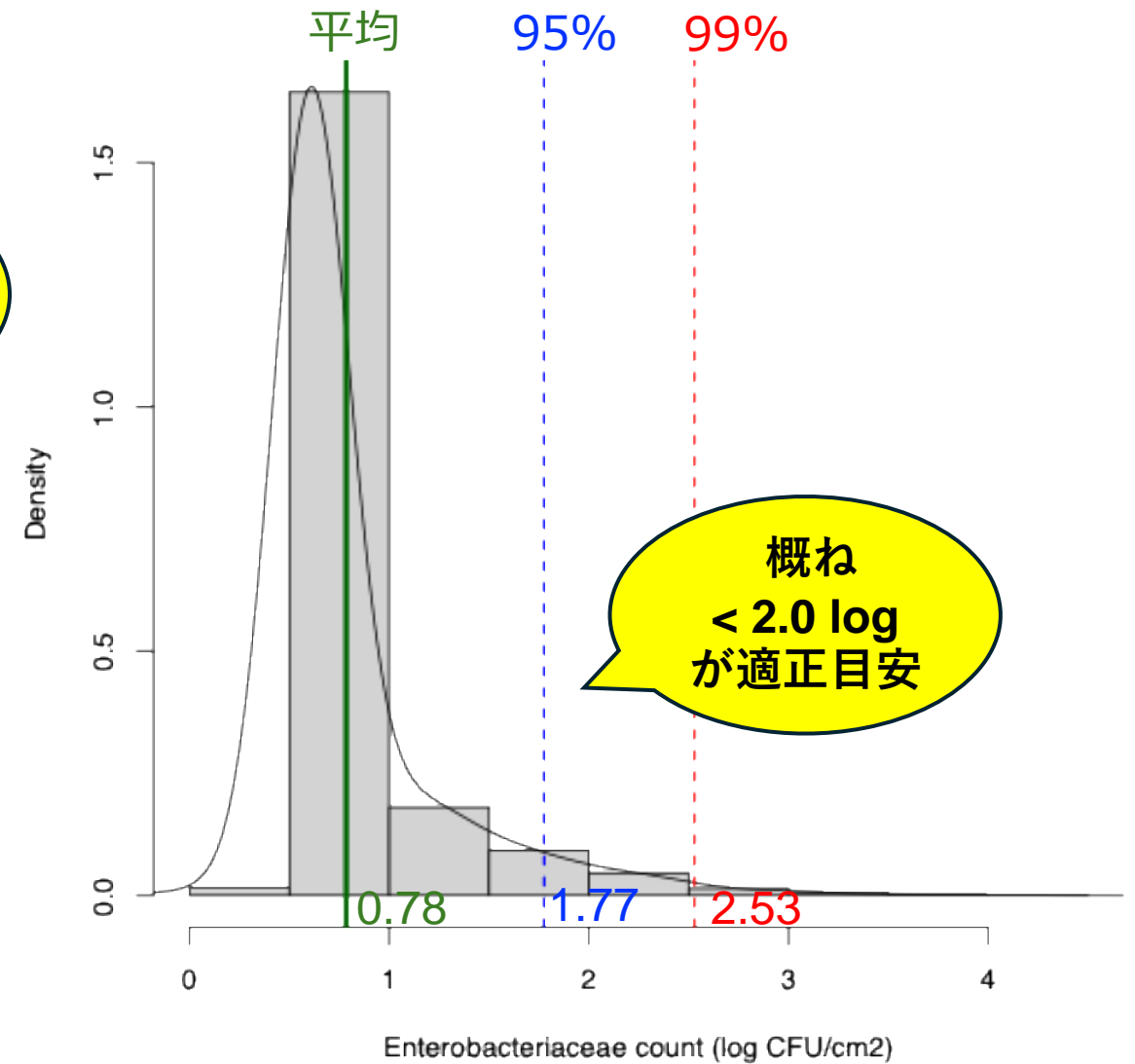


3 力年 (R2-R4 年度) 牛肉の菌数分布結果 (n = 9,745)

一般生菌数

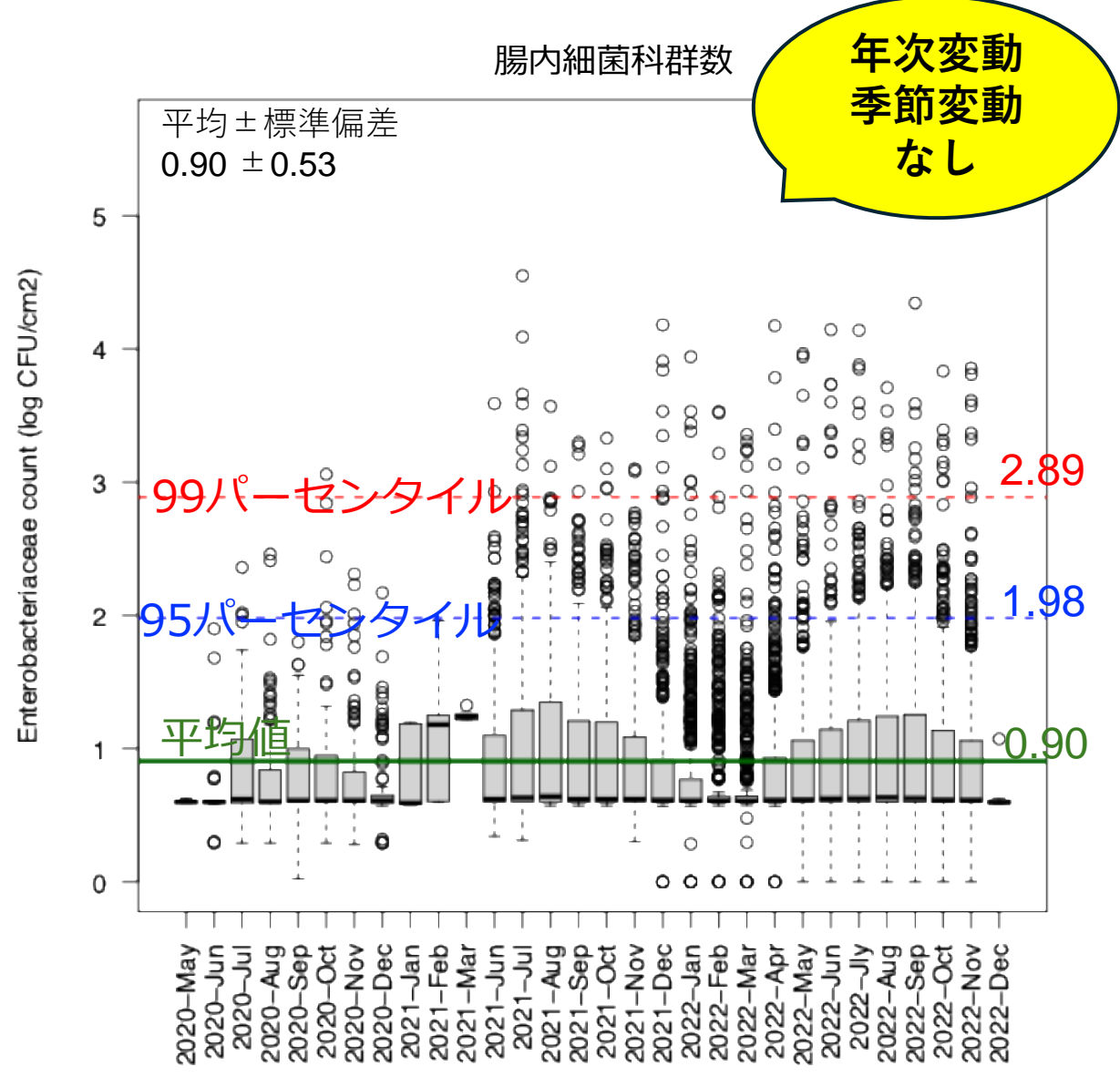
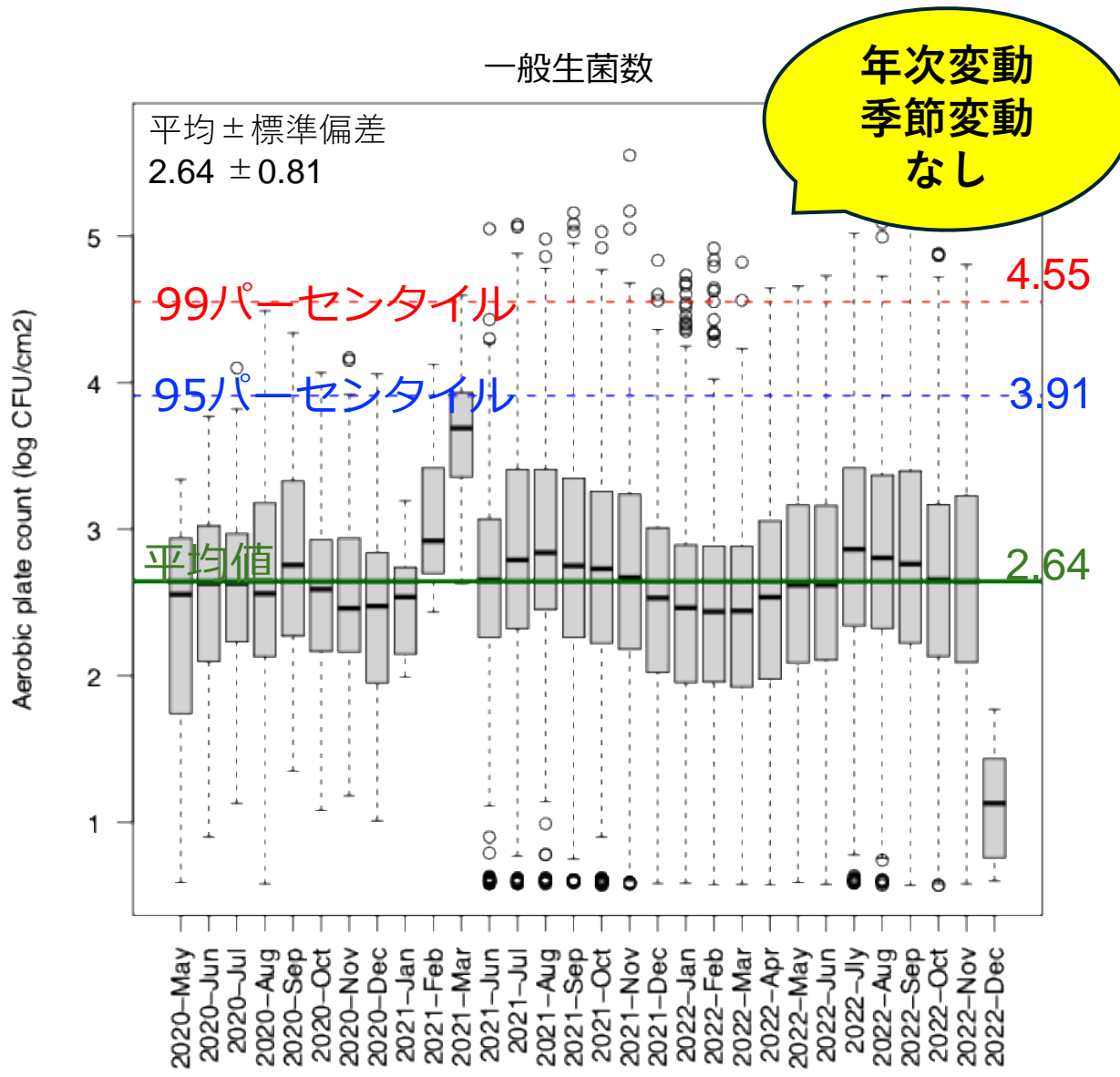


腸内細菌科群数

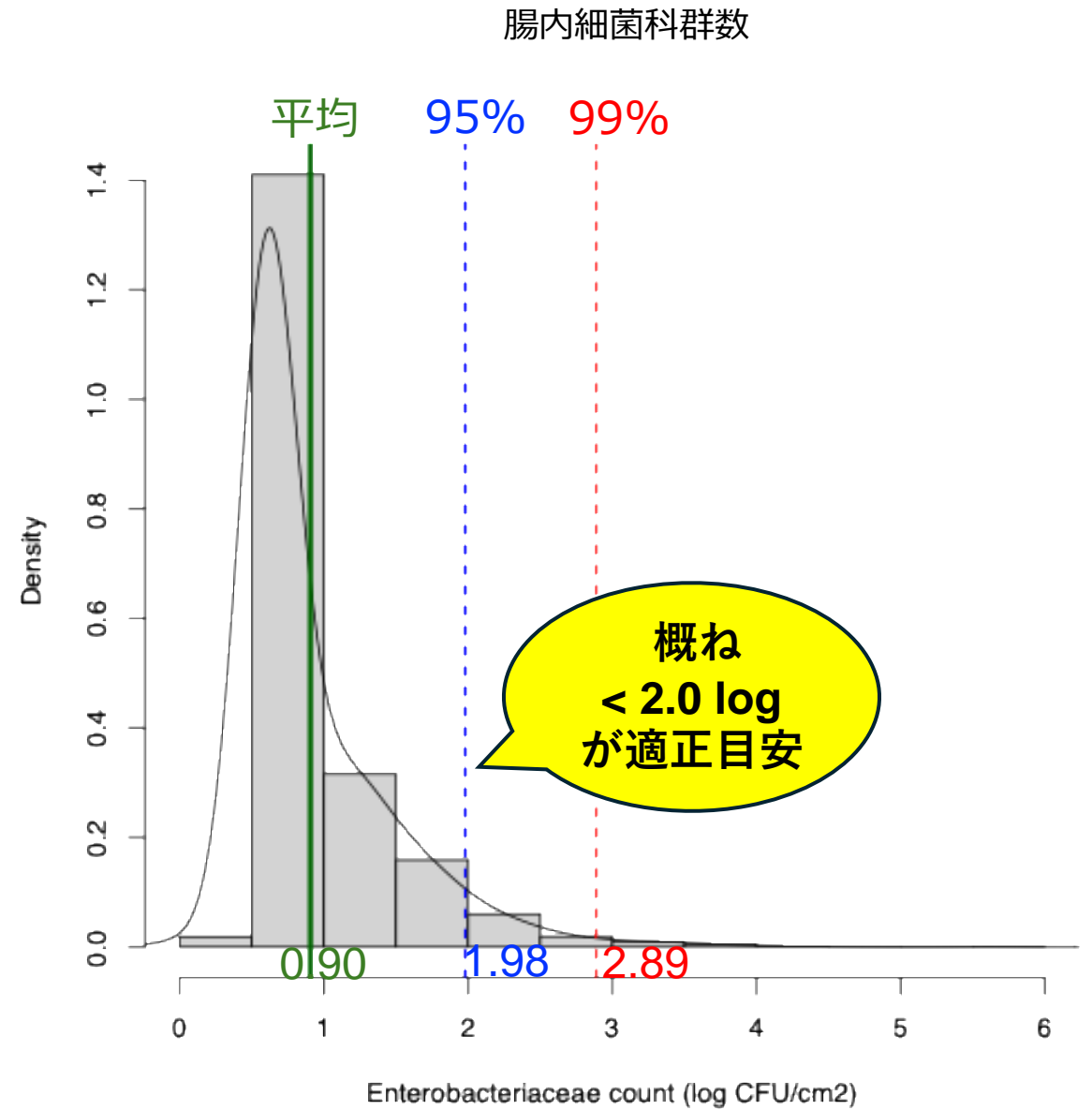
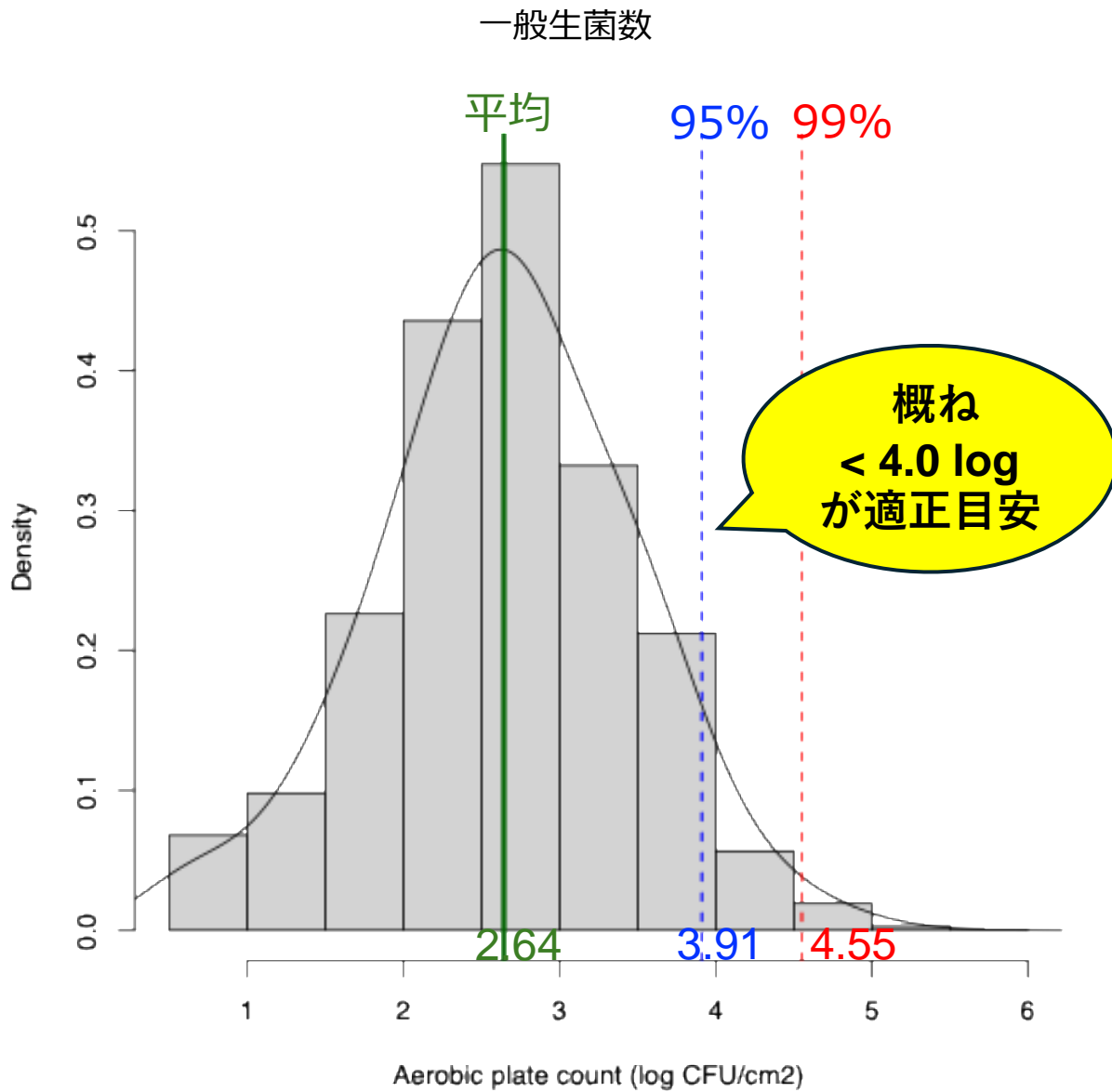


3 年 (R2-R4 年度) にわたる豚肉の菌数検査結果 (n = 107,00)

季節変動や年次変動なく概ね一定値 (範囲) で推移

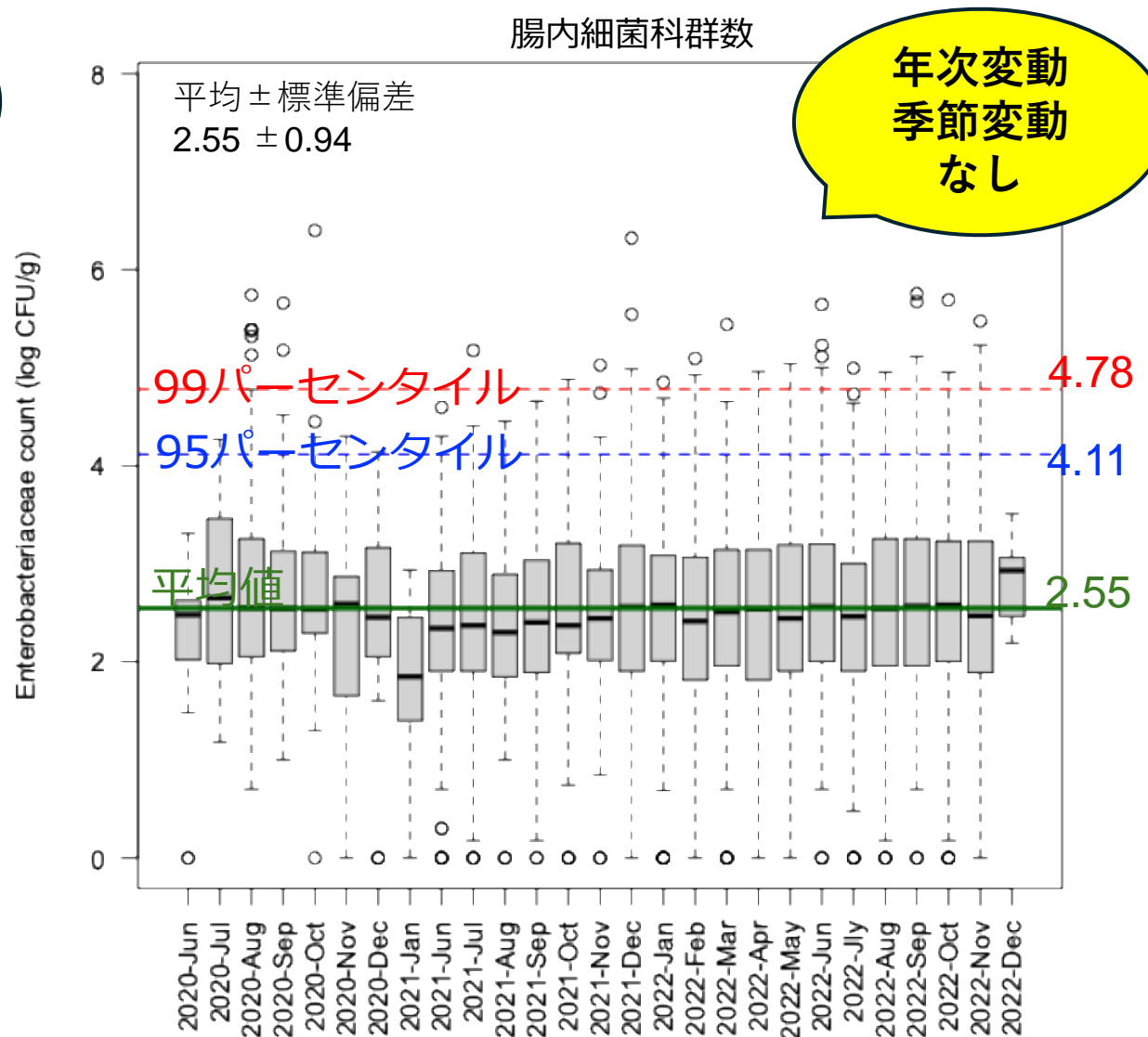
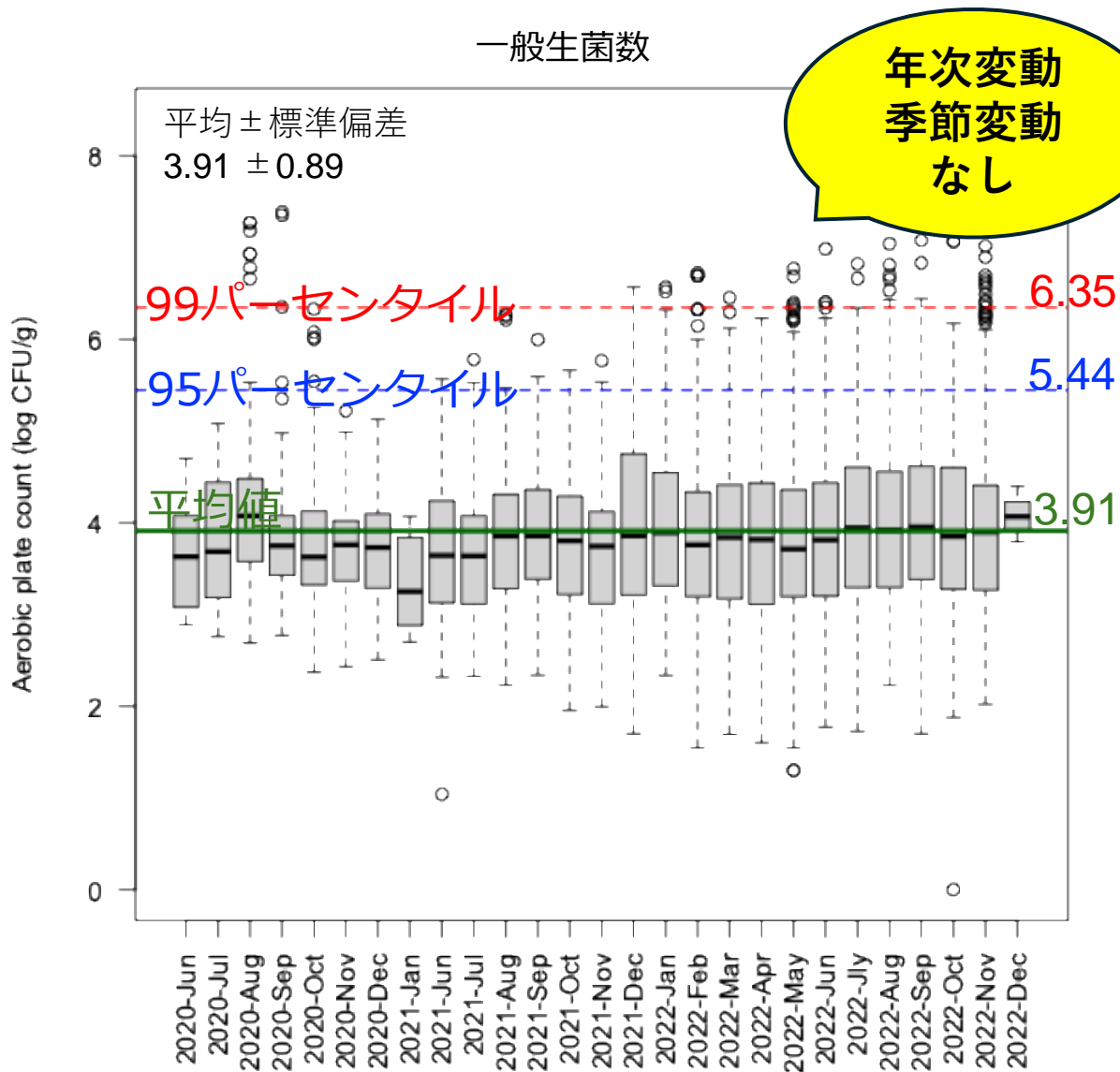


3カ年（R2-R4年度）にわたる豚肉の菌数検査結果（菌数分布、n = 107,00）



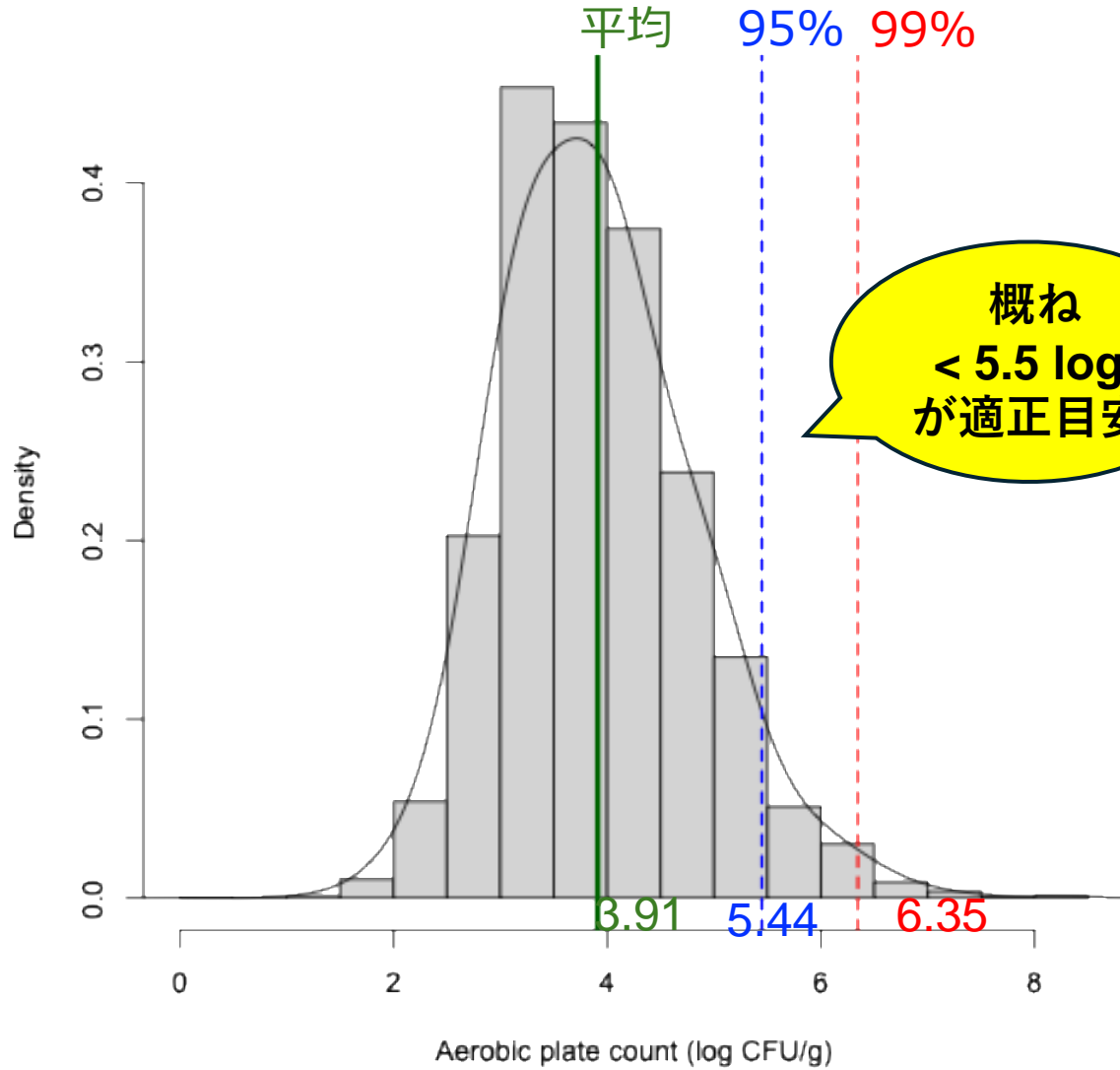
3カ年（R2-R4年度）にわたる鶏肉の菌数検査結果（n = 6,064）

季節変動や年次変動なく概ね一定値（範囲）で推移

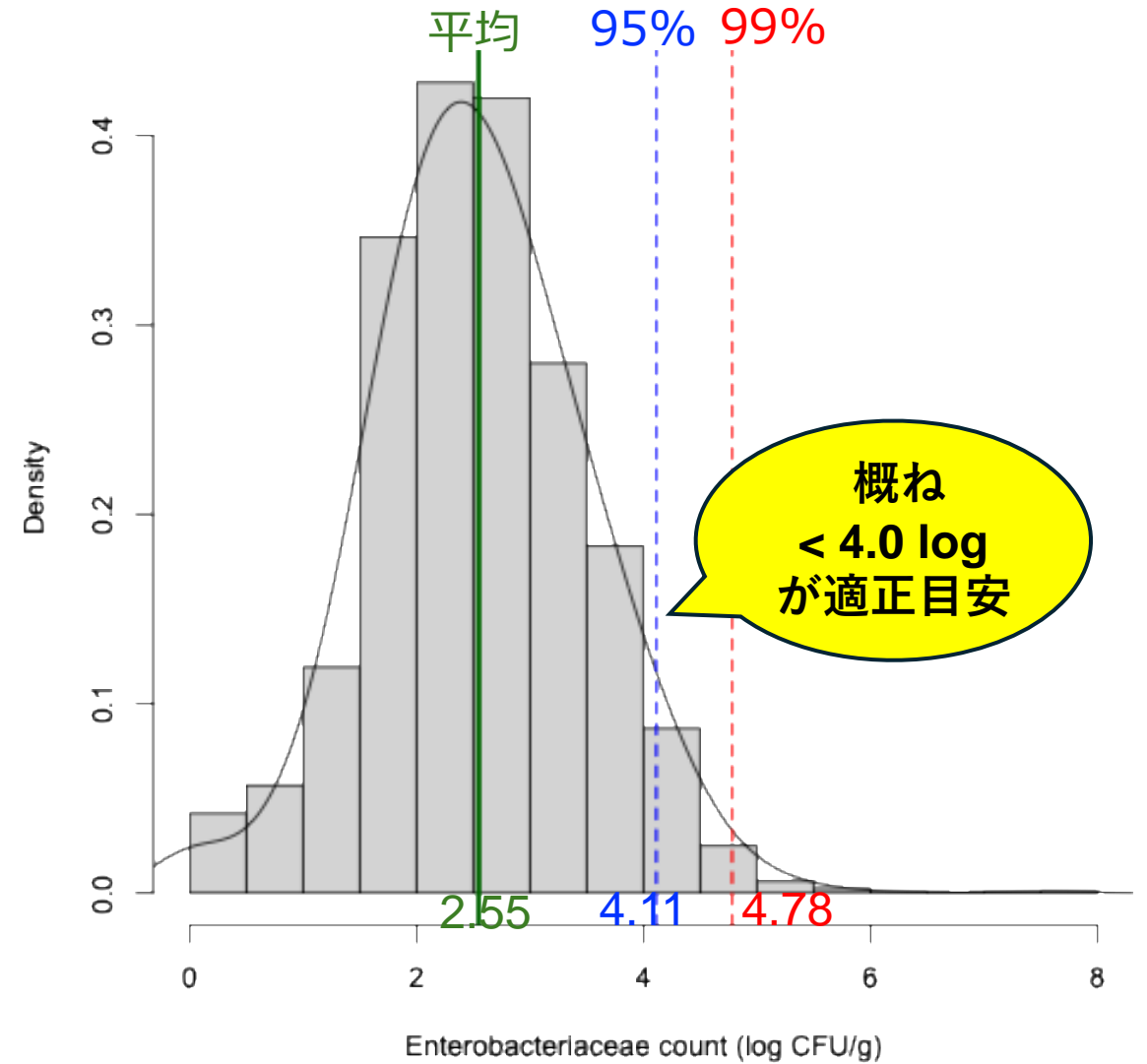


3カ年（R2-R4年度）にわたる鶏肉の菌数検査結果（菌数分布、n = 6,064）

一般生菌数

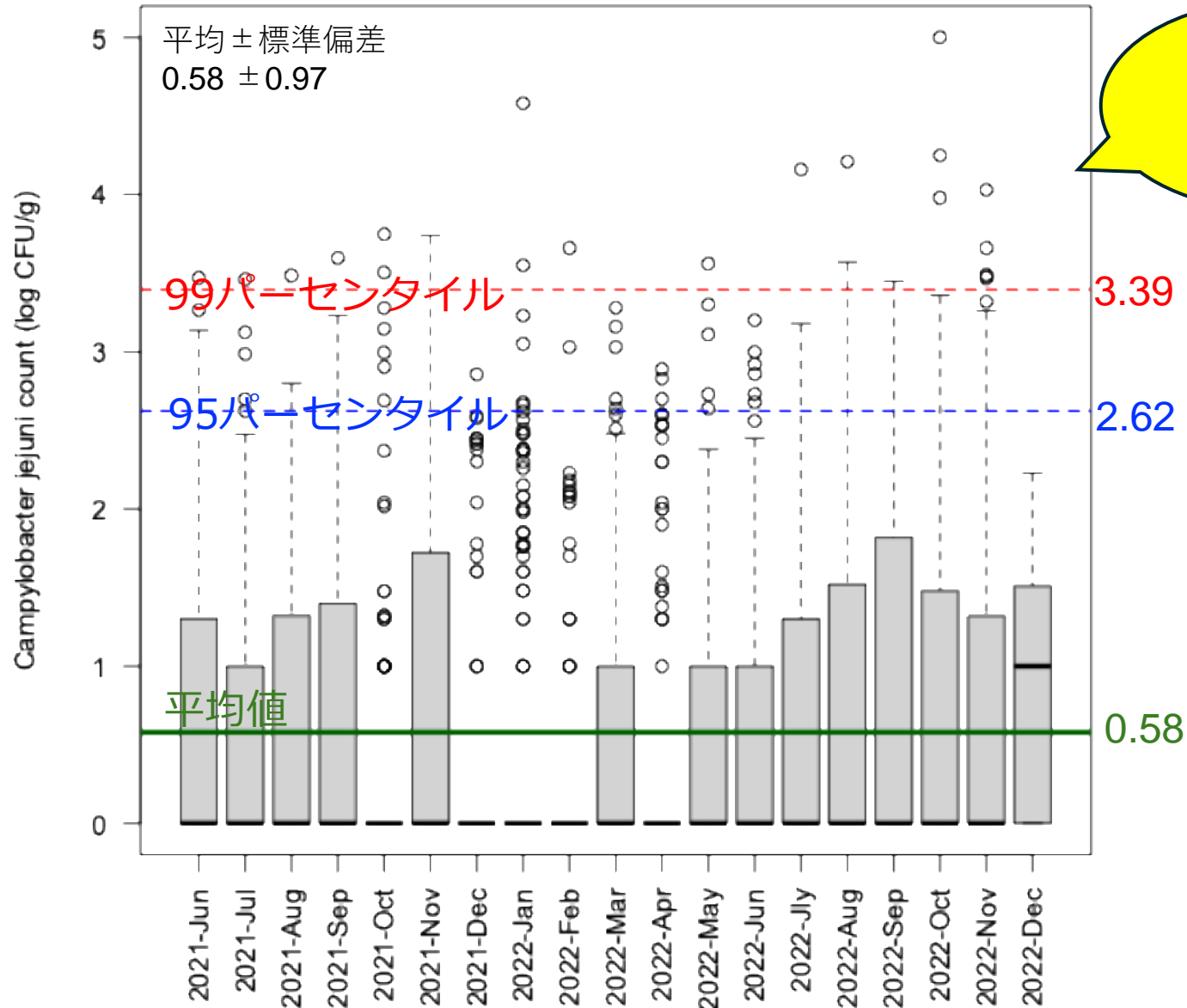


腸内細菌科群数

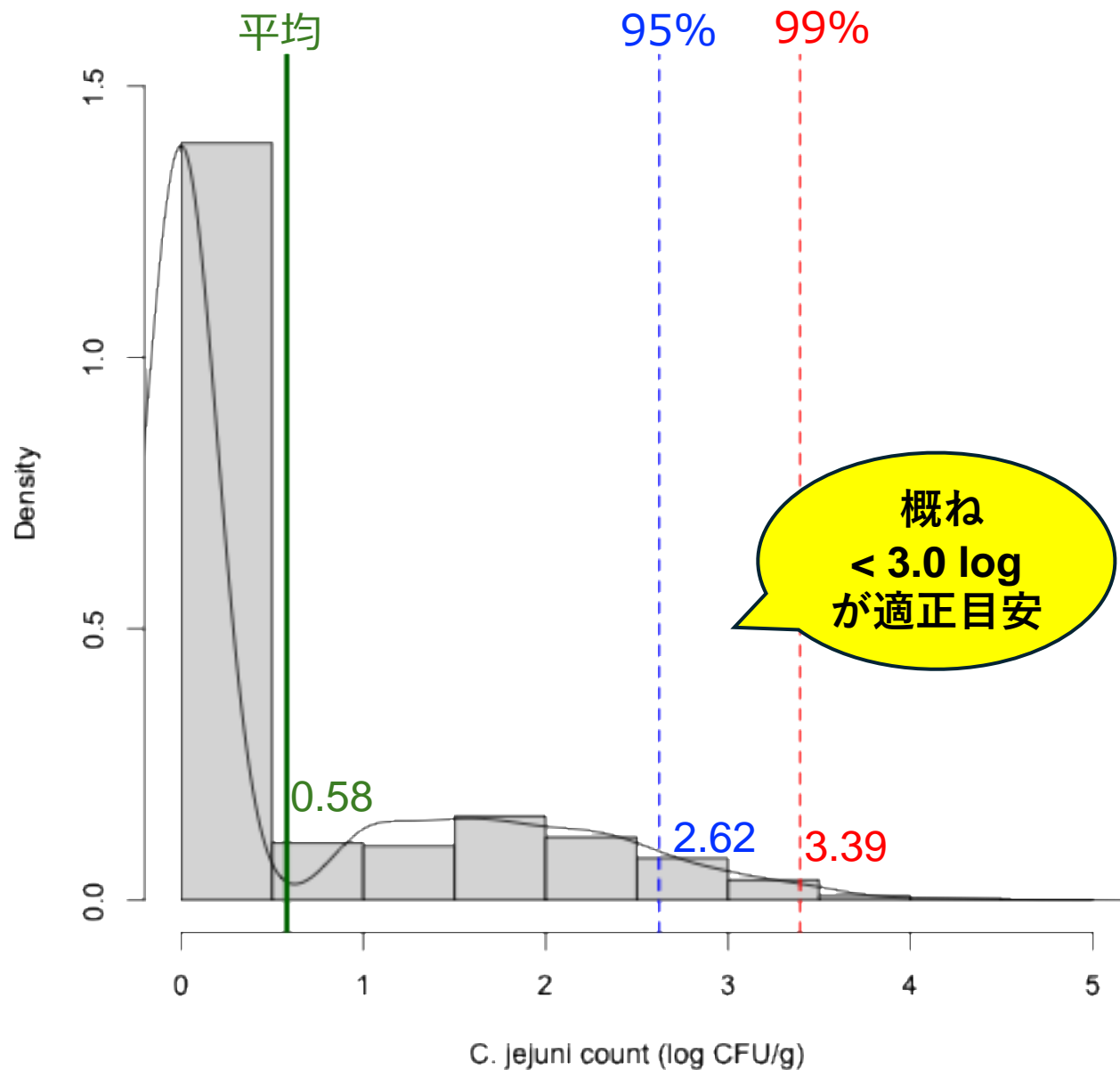


3カ年（R2-R4年度）にわたる鶏肉の *Campylobacter jejuni* 菌数検査結果（n = 2,651）






季節変動や年次変動なく概ね一定値（範囲）で推移



3カ年（R2-R4年度）にわたる鶏肉の *Campylobacter jejuni* 菌数分布（n = 2,651）



3カ年（R2-R4年度）にわたる菌数検査結果から言えること

-  牛肉、豚肉、鶏肉の一般生菌数、腸内細菌科群数いずれについても、年次変動、季節変動なく、それぞれほぼ一定範囲内の値。
-  鶏肉のカンピロバクターについても、年次変動、季節変動なく、ほぼ一定範囲内の値。
-  牛肉、豚肉、鶏肉のいずれにおいても、生産現場の衛生状態の上限指標として95パーセンタイル（≡「平均値 + 2標準偏差」）が一つの目安となる。
-  上記の衛生状態の指標を連続して超えるような状態は望ましくなく、処理工程に何らかの仕組み上の問題がある可能性を疑う。一時的に異常な（高い）値が出たとしても、それが連続するものでなければ、なんらかの偶発的な汚染の結果であり、問題視する必要はない。
-  カンピロバクターを危害要因として設定している場合、カンピロバクター数を継続的にモニタリングしていく必要があると考える。